

今月の植物

アオツツラフジ (カミエビ) ツツラフジ科

学名 : *Cocculus trilobus* (Thunb.) DC.

10月には薬草観察会で武雄市山内町の日ノ峯ダムを訪れるので、ここで観察できるアオツツラフジについて説明する。名前は緑を帯びたつる及びこのつるで編んだ籠をつづらということに由来している。落葉蔓性木本で北海道から沖縄の温帯に自生、県内では山野に普通に見られる。緑の枝には淡黄褐色の毛が生えている。葉は互生で葉身は長さ3~12cm、幅2~10cmの広卵形~卵心形、ときに浅く3裂する。両面とも淡黄褐色の毛がある。花は雌雄異株。7~8月に黄白色の花をつける。果実は直径6~7mmの球形で10~11月に粉白色を帯びた黒色に熟す。佐賀の方言ではアオカズラ、イトカズラ、ツツラカズラという。ここ日ノ峯ダムでは9月下旬に花と果実を観察できた。

薬草としては生薬名を木防己(もくぼうい)といい、根、茎(つる)を秋に採取、輪切りにして日干し、消炎、利尿、鎮痛に煎じて服用する。

類似種のツツラフジ(オオツツラフジ)はアオツツラフジより山地に分布。葉は5~7浅裂、無毛。薬効はアオツツラフジと同じく消炎、利尿、鎮痛に煎じて服用する。(文責:小池英毅)



2020.9.28 アオツツラフジの花
日ノ峯ダム (武雄市山内町)



2020.9.28 アオツツラフジの花と果実
日ノ峯ダム (武雄市山内町)



2018.11 アオツツラフジの茎を
日干したものを (武雄市柏岳)

【参考文献】

新・佐賀の薬草(佐賀県)、樹に咲く花離弁花2(山と溪谷社)、
薬草観察ハンドブック(倉成靖任)、佐賀県植物目録(馬場胤
義編—佐賀植物友の会)、身近な薬草一覧(佐賀県健康福祉
部薬務課、監修 野中源一郎)